

薬剤師業務の基本

[知識・態度] 第3版

薬局管理から服薬指導、リスクマネジメント、
薬学的管理、OTC医薬品、病棟業務まで

● 推薦の言葉	望月正隆
● 序	上村直樹
● 本書利用の手引	i
● 本書下巻 掲載項目一覧	ii
● 薬学教育モデル・コアカリキュラムと本文参照ページの対応表	iv

第1章 薬剤師業務の変遷と今後の展望

1. 病院薬剤師	平井みどり	2
1. 病院・病棟と薬剤師の歴史をふり返る		2
2. 病院薬剤師業務の移り変わり		3
3. これからの病院薬剤師		5
1) チーム医療などへの参加 / 2) 治療への主体的な関与		

2. 薬局薬剤師	上村直樹	9
1. 薬局薬剤師業務の変遷		9
2. これからの薬局薬剤師をとり巻く環境		10
3. これからの薬剤師に求められるもの		12
1) 知識・技能・態度 / 2) チーム医療		
4. 地域包括ケア		13
1) 地域包括ケアシステムとは / 2) 地域包括ケアシステムでの薬剤師の役割 / 3) 患者のための薬局ビジョン		

第2章 薬剤師倫理と態度

下平秀夫

1. 医療の担い手としての倫理規範	17
1) 医療の担い手としての薬剤師 / 2) 「薬剤師綱領」と「薬剤師倫理規定」/ 3) 医療倫理	
2. 身だしなみ・言葉づかい	19
1) 身だしなみ / 2) 言葉づかい	
3. 薬局に関する法令	20
4. 守秘義務・個人情報の保護	20
1) 守秘義務 / 2) 個人情報保護	
5. 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針	23
6. 利益相反 (COI)	23
7. 病院薬剤師に求められる倫理とは	24
1) 治験における倫理面での役割 / 2) 院内製剤における倫理面での役割	

第3章 薬剤師業務

1. 病院

奥山 清 26

1. 病院薬剤師の業務と役割	26
2. 病院薬剤師の心得	27
3. 病棟業務	29
4. チーム医療	30
1) 医療スタッフの職種名と業務内容／2) 感染制御チーム／3) 褥創ケアチーム／4) 糖尿病のチーム医療／5) 栄養サポートチーム／6) 緩和ケアチーム／7) がん化学療法	
5. 治験管理業務と市販後調査	37
6. 専門薬剤師	38
7. 院内委員会	39
8. 薬業連携	39

2. 薬局

下平秀夫 41

1. 医薬分業とかかりつけ薬剤師・薬局	41
1) 医薬分業のメリットとデメリット／2) かかりつけ薬剤師・薬局	
2. 薬局薬剤師の役割	42
3. 薬局業務運営ガイドライン	44
4. 構造設備	44
1) 薬局の構造設備の基準（薬局等構造設備規則）／2) 薬局の独立性と立地／3) 薬局の掲示物／4) 待合室、一般用医薬品などの陳列／5) 処方受付・投薬カウンター／6) 調剤室／7) 医薬品倉庫／8) 情報公開・安全管理体制の整備	
5. 薬局開設者	50
6. 管理薬剤師	51
7. 調剤録	51
8. 調剤報酬と保険請求	52
1) 医療保障制度／2) 保険処方箋／3) 保険薬局・保険薬剤師／4) 保険調剤報酬	
9. 薬局の地域医療連携	56

第4章 服薬指導

1. 服薬指導

高橋 寛 58

1. 服薬指導とは	58
1) 服薬指導の目的／2) 具体的指導内容〔患者に伝える内容とは？〕／3) 服薬指導を進める上でのポイント／4) 服薬指導の手法とその利点・欠点	
2. 服薬指導時の態度	64
1) 共感的態度で接する／2) 閉じた質問と開いた質問を使い分ける／3) プライバシーに配慮する／4) 話す時のポイント／5) 処方箋・薬歴内容の把握	
3. 服薬指導の手順	65
1) 事前準備／2) 導入／3) 情報収集／4) 情報提供／5) 質問を受ける／6) あいさつ／7) 薬歴の記載	

2. 薬歴管理	高橋 寛	67
1. 薬歴とは（薬歴管理の意義）		67
2. 薬歴管理の目的		67
3. 薬歴の形式		68
4. 薬歴簿の記載内容		68
1) 患者についての記録（患者の基本的情報）／2) 処方についての記録（処方した医療機関名および保険医氏名・処方日・処方内容など）／3) 調剤についての記録（調剤日・処方内容に関する疑義照会の要点など）／4) 服葉指導で得られる情報の記録（日々の記録）		
5. 薬歴の記載方法		71
1) 患者に属する基本的な情報／2) 処方内容に伴う経過的な情報／3) 記載方式について		
6. 薬歴簿の保管・管理について		74
1) 保管形態／2) 保管場所／3) 薬歴簿の整理と分類		
7. 薬歴を用いたリスクマネジメント事例		76
3. お薬手帳	高橋 寛	79
1. お薬手帳とは		79
2. お薬手帳の利点		80
3. お薬手帳に記載する事項		80
4. その他の工夫		81
4. 患者への情報提供	高橋 寛	83
1. 患者が必要としている情報		83
2. 薬剤情報提供書		86
1) 薬剤情報提供書の意義／2) 義務化された薬剤師の情報提供／3) 薬剤情報提供書の記載項目／4) 薬剤情報提供書の注意点／5) 実際に工夫している点		
5. 注意を要する疾患、小児、妊婦・授乳婦、高齢者への服葉指導	高橋 寛	90
1. 注意を要する疾患について		90
2. 小児への服葉指導		90
1) 小児への服葉指導のポイント／2) 小児への散剤の飲ませ方の工夫／3) 小児薬用量／4) その他の注意事項		
3. 妊婦や授乳婦への服葉指導		92
1) 妊婦や授乳婦への服葉指導のポイント／2) 妊婦への薬剤投与の原則		
4. 高齢者への服葉指導		93
1) 高齢者の特徴／2) 高齢者への服葉指導のポイント		

第5章 医薬品管理

1. 医薬品管理の目的、意義	奥山 清	96
1. 医薬品管理とは		96
2. 施設による違い		96
2. 品質管理	奥山 清	98
1. 保存条件		98

2. 医薬品の有効期限	99
3. 法的な規制	99
4. 医薬品情報と安全管理	100
1) 医薬品情報について / 2) 医薬品安全管理の重要性	

3. 在庫管理

奥山 清 102

1. 在庫管理とは	102
2. 在庫管理業務の流れ	102
3. 保険薬局と病院、施設規模による在庫管理の違い	105
1) 保険薬局 / 2) 病院 / 3) 規模による違い	
4. (保険) 薬局における適正在庫の確保	106
5. 医薬品卸業者と MS	106
6. (保険) 薬局における在庫管理システム	107
7. 他薬局への分割販売(零売)	109

4. 法的管理が義務付けられている医薬品

花島邦彦、奥山 清 111

1. 規制医薬品とは	111
2. 劇薬	113
1) 劇薬とは / 2) 劇薬の管理・保管 / 3) 劇薬の調剤	
3. 毒薬	113
1) 毒薬とは / 2) 毒薬の管理・保管 / 3) 毒薬の調剤	
4. 麻薬	116
1) 麻薬とは / 2) 麻薬を取り扱うための免許 / 3) 麻薬の譲渡・譲受 / 4) 麻薬の保管 / 5) 帳簿への記録 / 6) 麻薬の調剤 / 7) 病棟における麻薬管理 / 8) 在宅医療における麻薬管理 / 9) 麻薬の廃棄 / 10) 事故届 / 11) 年間届	
5. 覚せい剤原料	125
1) 覚せい剤原料とは / 2) 覚せい剤原料の譲渡・譲受 / 3) 覚せい剤原料の保管 / 4) 覚せい剤原料の調剤 / 5) 覚せい剤原料の廃棄	
6. 向精神薬	127
1) 向精神薬とは / 2) 向精神薬の譲渡・譲受 / 3) 向精神薬の保管 / 4) 向精神薬の記録 / 5) 向精神薬の廃棄 / 6) 向精神薬の調剤 / 7) その他：調剤時に処方医に確認を要する薬剤	
7. 特定生物由来製品	132

第6章 医薬品情報管理

1. 医薬品情報管理の意義と目的

若林 進 136

2. 病院における医薬品情報管理—医療従事者向け情報を中心に

若林 進 138

1. 医薬品情報の収集	138
1) 個々の医薬品に関する情報 / 2) 副作用などの情報源	
2. 医療関係者からの Q & A (受動的情報提供)	141
1) 医薬品識別に関する Q & A / 2) 医薬品から病名を考える Q & A / 3) 病名から医薬品を考える Q & A / 4) 配合変化・安定性に関する Q & A / 5) 副作用・相互作用に関する Q & A / 6) 院内製剤に関する Q & A / 7) 一般用医薬品に関する Q & A / 8) 医事、薬事に関する Q & A / 9) その他の Q & A	

3. 医療関係者への情報発信（能動的情報提供）	147
1) 院内定期刊行物（院内報）による情報提供／2) 院内医薬品集の作成／3) 院内ホームページなどによる情報提供／4) 電子カルテシステム、オーダリングシステムを利用した情報提供	
4. 患者への情報提供	149
1) 製薬会社が作成する患者向け医薬品情報／2) 施設内で作成する患者向け医薬品情報／3) その他の患者向け医薬品情報	
5. 副作用報告制度	151
1) 市販直後調査制度／2) 医薬品安全性情報報告書	

3. 薬局における医薬品情報管理—患者向け情報を中心に

下平秀夫 153

1. 薬局における医薬品情報業務の特徴	153
2. 薬局が利用する主な情報源	154
1) 医薬品インターネットフォームの活用／2) SNS の活用／3) 雑誌／4) 医薬品卸からの情報／5) 製薬企業からの情報	
3. 薬局に備える主な書籍	156
4. 医薬品情報に関わる Web サイト	157
1) Web で利用できる医薬品情報関連サイト／2) 診療ガイドライン	
5. 薬局が行う情報提供	159
1) 患者・生活者への情報提供／2) 医薬品情報活動報告書（DI 報告書）／3) DEM	
6. セルフメディケーション情報	161
1) 一般用医薬品の添付文書／2) 健康関連情報	

第7章 リスクマネジメント

1. リスクマネジメントとは

伊藤由紀 164

2. ハイリスク薬管理

伊藤由紀 166

1. ハイリスク薬とは	166
2. ハイリスク薬の薬学的管理指導	166
1) 病院／2) 薬局／3) 注意すべき薬剤	
3. ハイリスク薬の薬剤服用歴管理指導の業務手順と方法	168

3. 調剤過誤防止・インシデント報告

伊藤由紀 170

1. 調剤過誤防止	170
2. ハインリッヒの法則	170
3. インシデント報告	170
4. 調剤過誤の実際	172
5. 調剤過誤および調剤事故の原因	172
1) ヒューマンエラー／2) システムエラー	
6. 患者も味方に	174
7. リスク回避の立案および実施	175
1) 薬品棚の位置の工夫の例／2) 表示方法の工夫の例／3) その他の工夫の例	
8. 調剤の過程における具体的な調剤過誤防止例について	179
1) 調剤から監査まで／2) 充填作業について／3) 薬剤の交付について	

4. 医療安全	丸山桂司	186
1. 薬局における安全管理体制		186
2. 病院における安全管理体制		187
5. 感染制御	丸山桂司	188
1. 感染制御の基本		188
1) 標準予防策／2) 感染経路別予防策		
2. 院内感染（医療関連感染）対策		190
1) 感染制御の組織／2) 院内感染の情報伝達・活動／3) 感染制御チーム		
3. アウトブレイクの考え方と対応		191

第8章 病棟業務

永田将司

1. 薬剤師の病棟業務の目的と病棟専任薬剤師の役割	193
2. 入院患者に対する病棟業務の実際－POSの導入－	194
1) 基礎情報の収集／2) 問題リスト立案／3) 初期計画立案／4) 計画の実践および経過記録作成／5) 監査／6) 退院時薬剤情報管理指導	
3. その他の病棟業務	204
1) 病棟医薬品管理／2) 処方支援事例などの情報共有／3) 医薬品安全性情報管理	

第9章 薬学的管理

1. 代表的な8疾患（がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症）

根岸健一 207

1. がん	209
2. 高血圧症	211
3. 糖尿病	213
4. 心疾患	216
5. 脳血管障害	217
6. 精神神経疾患	218
7. 免疫・アレルギー疾患	220
8. 感染症	221

2. がん化学療法施行患者に対する薬学的管理（病棟）

鈴木貴明 225

1. 処方箋の監査（化学療法レジメンの監査）	225
1) 用法・用量／2) 化学療法歴の有無／3) 前投薬の確認／4) 患者の併発疾患、既往歴の確認／5) 臨床検査値の確認	
2. 薬剤管理指導	227
1) 入院時／2) 化学療法前／3) 化学療法施行時、施行後／4) 退院時	

3. 外来化学療法における適切な薬学的管理

青山隆夫 231

4. 急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)における薬学的管理 高梨 愛 234

1. 急性期医療の現場体制	234
2. 急性期医療における薬剤師の業務	234
1) 医薬品管理／2) 常用薬確認／3) カンファレンス・回診への参加／4) 指示内容の確認、投与経路の管理／5) 注射薬の調製と感染制御／6) 他職種への医薬品情報の提供・教育／7) 薬剤管理指導／8) 転室時の薬物治療調整	
3. 救急医療における薬学的管理	236
1) 初療への介入／2) 中毒(薬物中毒)への対応	
4. 集中治療における薬学的管理	237
1) 神経／2) 呼吸／3) 循環／4) 水・電解質・腎／5) 感染／6) 血液・凝固／7) 消化器・栄養	

5. 周産期医療・小児医療の薬学的管理

小高賢一 241

1. 周産期医療における薬学的管理	241
1) 妊婦または妊娠可能な婦人に対する薬物療法の注意点／2) 授乳婦への薬物投与	
2. 小児医療における薬学的管理	243
1) 小児の薬物動態の主な特徴／2) 小児への用法・用量について／3) 小児への投与が「禁忌」もしくは注意を要する主な薬剤	

6. 臨床検査値の活用

赤木祐貴 245

1. 主な臨床検査値	245
2. 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性	245
1) 効果のモニタリング例／2) 副作用のモニタリング例／3) 相互作用のモニタリング例	
3. 院外処方箋に臨床検査値を印字する意義	248

7. 薬物投与プロトコールやクリニカルパスの利用

下村 斎 250

1. プロトコールに基づく薬物治療管理(PBPM)	250
1) PBPM の病院内での運用の流れ／2) PBPM の具体的実践事例	
2. クリニカルパスの活用	252
1) クリニカルパスとは／2) クリニカルパスのメリット／3) クリニカルパスの作成・運用の流れ／4) 薬剤師のクリニカルパスへの関わり	

第10章 薬局に特殊な業務

1. 休日・夜間・緊急災害時対応

水八寿裕 256

1. 休日・夜間対応	256
1) 休日・夜間における薬局の役割／2) 休日・夜間における薬局・薬剤師の対応／3) 休日・夜間における地域薬剤師会の対応	
2. 緊急災害時対応	257
1) 災害時の薬剤師の実際の活動／2) 災害に対する備えとBCP策定の重要性	

2. 学校薬剤師

塙原俊夫 260

1. 学校薬剤師の歴史	260
2. 学校薬剤師の職務について	261
1) 環境検査について／2) 健康相談と保健指導への参画／3) 学校の健康教育への役割について／4) これからの学校薬剤師	

3. 薬局製剤・漢方製剤	塚原俊夫	265
1. 薬局製剤とは		265
2. 具体的な薬局製剤		265
3. 薬局製剤のはじまり		266
1) 薬律に基づく製剤／2) 薬局売薬と公定処方 45 処方／3) 国民医薬品集収載品／4) 現在の状況：日本薬局方と漢方製剤		
4. 薬局製剤の製造販売において守るべき法律項目と義務		268
1) 申請届出について／2) 義務／3) 医薬品副作用健康被害救済制度		
5. 薬局製剤の要件について		268
6. 代表的な薬局製剤を作成してみよう		269
1) 薬局製剤の製造の一連の流れ／2) 感冒剤 13 号 A を作成してみよう		
7. 薬局製剤の品質管理		270
8. 薬局製剤の販売について		271
9. 薬局製剤のもつ意味について		271

4. ドーピング防止活動	塚原俊夫	272
1. ドーピングとは		272
2. ドーピング防止活動		272
3. うっかりドーピングを防ぐためには		273
4. スポーツファーマシスト		274
5. 禁止物質・禁止方法について		274
6. これからのスポーツファーマシストに期待されること		276

第11章 セルフメディケーションの支援

1. プライマリ・ケア、セルフメディケーションとは	鹿村恵明	278
1. プライマリ・ケアとは		278
2. セルフメディケーションとは		279
2. 要指導医薬品・一般用医薬品の定義、 スイッチ OTC 医薬品とダイレクト OTC 医薬品	鹿村恵明	281
1. 要指導医薬品・一般用医薬品とは		281
1) 要指導医薬品の定義／2) 一般用医薬品の定義		
2. スイッチ OTC 医薬品とダイレクト OTC 医薬品		283
1) スイッチ OTC 医薬品とは／2) ダイレクト OTC 医薬品とは		
3. 顧客（来局者）応対のシミュレーション		284
3. リスク分類と法律	鹿村恵明	287
1. 要指導医薬品・一般用医薬品の販売形態		287
2. 医薬品の分類		287
3. 要指導医薬品・一般用医薬品のリスク区分、販売方法、対応者		287
4. 情報提供、陳列方法		289
1) 情報提供の場所／2) 販売制限／3) 販売前の事前確認、販売者等の情報伝達、販売記録／4) 医薬品使用開始後の注意点の説明／5) セルフメディケーション税制		

5. 薬局における掲示事項（要指導医薬品・一般用医薬品関係）	295
4. 副作用防止（一般用医薬品）	塚原俊夫 298
1. 一般用医薬品による副作用報告	298
2. おさえなくてはいけない副作用	300
1) 薬理作用から予測できる副作用／2) 予測できないアレルギーによる副作用／3) 長期連用による副作用	
3. 一般用医薬品の副作用と添付文書	300
1) 添付文書の副作用項目の確認／2) 医薬品販売時に必ず確認する事項	
4. 副作用が起こった場合の対処について	304
1) 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度／2) 医薬品副作用被害救済制度	
5. 医薬部外品・化粧品	塚原俊夫 306
1. 医薬部外品	306
2. 化粧品	306
6. 機能性食品	塚原俊夫 309
1. 特定保健用食品（特保）	310
2. 栄養機能食品	312
3. 機能性表示食品	313
7. 医療機器	塚原俊夫 314
8. 毒物・劇物	塚原俊夫 316
1. 貯蔵	316
2. 譲渡・販売	317
3. 情報の提供義務（SDS）	317
4. 事故・盗難の際の措置	317
索引	319

○ X 章末問題

2章	25	8章	206
3章	57	9章	255
4章	95	10章	277
5章	135	11章	318
6章	163			
7章	192			

1章は章末問題なし

各章の最後のページに演習問題を掲載しています。CBTに準じた内容と形式になっており、各章の内容の整理とCBT対策に役立ちます。

解答と解説は、問題の下にあるQRコード*を読み込むことによってお手持ちの端末でご覧いただけます。

または、弊社ホームページの本書特典ページにも掲載しております。

(本書特典ページの閲覧方法は右ページの「本書利用の手引」をご参照ください)

*QRコードのご利用には「QRコードリーダー」が必要となります。お手数ですが、各端末に対応したアプリケーションをご用意ください。

※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。